

市長選前に公開討論会

きょう 立候補予定者が出席

柳川 J C 主催

柳川市長選(四月五日告示、同十二日投票)を前に柳川青年会議所(目野忠治郎理事長)は、二十六日午後七時から市民会館大ホールでロイヤルマニフェスト型公開討論会「だっでんで『柳川』ばどげんかせやんばい」を開く。市長選に立候補を予定している現職の石田宝蔵氏(59)と新人で前市議会議務局長の金子健次氏(60)が出席する。

柳川 J C は、立候補提供しよつと討論会を、予定者の政策や主張が前回の市長選に続き実正確に伝えられる場を施する。

討論会では両氏のマニフェストの現状認識、政策と「産業活性化」および長期構想、すくに堀と環境「少子化対策」

「安心安全」についての説明や討論がある。

市民を対象に実施された市の重要課題などのアンケートを参考にテーマを選んだ「議会運営を円滑にする策」「マルシヨク跡地を含めた中心市街地の具体

的な活性化策」行財政改革は何から取り組むか「若年層雇用対策の具体的施策」の四点についての説明や討論も。

コーディネーターは、日本青年会議所九州地区長崎ブロック協議会直前会長の北村貴寿さん。北村さんはローカルマニスト推進ネットワークに所属し、平成十八年の長崎県大村市長選でマニフェスト型公開討論会に携わった。入場は無料。先着千人。問い合わせは柳川 J C (電734015番)へ。(富安 龍介)



柳川市長選

石田氏

「議会の見直し必要」

金子氏

「市政の信頼回復を」

出馬予定の2氏公開討論

四月五日告示、同十二日投票の柳川市長選に立候補を表明している現職石田宝蔵氏(五七)と新人金子健次氏(六〇)は二十六日夜、市民会館で開かれた公開討論会に出席し、まちづくりや市政の課題についてマニフェストに基づく主張を展開した。柳川青年会議所の主催。会場を埋めた市民約千人は両氏の主張に耳を傾け、市の将来を考えをめぐらせた。

■市政全般

順位を付け、堅実な財政もあり方を見直すべき運営だった」と強調。市「だ」と主張した。

合併から四年を経た市政の現状について石田氏は「地方交付税などが減らされる中、政策の優先するようにならざる中、議員への逆質問ができて、議会の宣言。「市民不在の政

■水質浄化

争に終始し、市政が停滞した四年間だった。市民、市議会と一体となり、市政への信頼を取り戻す」と、議会との融和を重視する考えを示した。

両氏とも合併処理浄化槽の設置推進を訴えたが、手法には違いが出た。石田氏は前回の市長選

■産業振興

乗せて設置スピードが確実に上がる」と訴えた。

有明海沿岸道路や九州自動車道みやま柳川インターチェンジ(ＩＣ)の

に続き、市主体で浄化槽設置を進める「市町村型」を掲げ「現行の『個人型』より市民の負担が軽減でき、市の責任で水質浄化を進める」と述べ、「六年間で六千基」を目標に掲げた。

石田氏はみやま柳川ＩＣにつながる国道443号バイパス沿いに「道の駅」開設を提案。「農業の特産品や伝統工芸品を生かし、観光客を呼び込む。柳川駅前の再開発や漁業団地整備にも取り組む」とした。

金子氏は川下りコース沿いや商店街の空き店舗に観光客が立ち寄れる「かわの駅」「まちの駅」を開設し、にぎわいを取り戻す案を提示。農業面では「蓄菜」に続く転作物物の開発を進め、高収益型農業を推進する」と述べた。